



走り出そう。
地域へ、
世界へ、
未来へ。



地域と、社会と、世界と共に、 新しい風を起こそう

キャンパスだけが、学びの場ではありません。

視野を大きく広げれば、地域が、社会が、そして世界中が、学びの場。

まずは一歩踏み出してみましょう。

走り始めたあなたの目に、広大な景色が飛び込んでくるはずです。

それこそが、生きた学び。

地域のために、世界のために、自分のために。

走るあなたをサポートするのが、コミュニティ・コラボレーションセンター。

地域社会と大学とのパートナーシップを推進し、

社会の一員として地域の発展に貢献します。





愛知淑徳大学 学長
島田 修三

地域との相互理解と連携を

愛知淑徳大学は「違いを共に生きる」という基本的な理念を掲げております。さらに、この基本理念を支え、具体的に実現していくべきテーマのひとつとして、「地域に根ざし、世界に開く」という指針を掲げております。まず地域社会との確かな連携によって、これを実現していくために、2006年9月、コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)を開設いたしました。

CCCは、本学学生が学外のさまざまな地域のコミュニティに能動的に参加交流し、地域の皆さまとともに活動しながら、実践的な生きた知識や技術を学ぶことを支援する教育組織です。こうした教育活動を通して、豊かな人間性や社会性、さらにはそれぞれのテーマに沿った深い専門性をそなえた人材を育てることができると期待しております。

大学の外に広がる多様なコミュニティと連携協力し、その活性化を共通の目標として活動するためには、おたがいを認知し、理解し合うことが不可欠なものとなります。この相互的な認知と理解は、本学の基本理念「違いを共に生きる」に端的に通ずるものです。こうした考え方を土台として、愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンターは、異なる価値観を認め合い、理解し合い、地域社会に貢献をしていきたいと考えております。

以上の本学の教育的取り組みに対して、どうか皆さまのご理解とご協力のほどをお願い申し上げます。



コミュニティ・コラボレーションセンター センター長

ブイ チトルン

CCC からふみ出す一歩が、
一人ひとりの未来を開くと信じています。

コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)が誕生し、2011年9月で5周年を迎えます。これまでに、学部やゼミ、教員ごとに点在していた地域との活動やつながりがCCC開設を機に線で結ばれ、学外の多様なコミュニティへと続く道となり、より多くの学生たちが地域との活動にチャレンジするようになりました。学生が地域と共に歩みを進めるたびに、人とのつながりや活動の幅が大きく広がっていき、この5年でCCCのゆるぎない礎が築かれたと感じています。

CCCは、地域の活性化をめざすとともに、学生たちの専門性や人間性を育む役割を担っています。学生たちには、大学での学修を地域で活かし、社会の今を心や体で深く実感してほしい。そして、大学で学ぶ「Headwork」、現場で実感を得る「Footwork」、人と協働する「Network」の経験を重ね、自分のビジョン、地域のよりよい未来を見つめてほしい。そう願っています。

今日も、CCCのドアが、希望の芽を持つすべての学生たちのために開かれています。CCCからふみ出した一歩が、やがて大きな実を結び、一人ひとりの人生を十倍も百倍も有意義なものにしてくれると信じています。

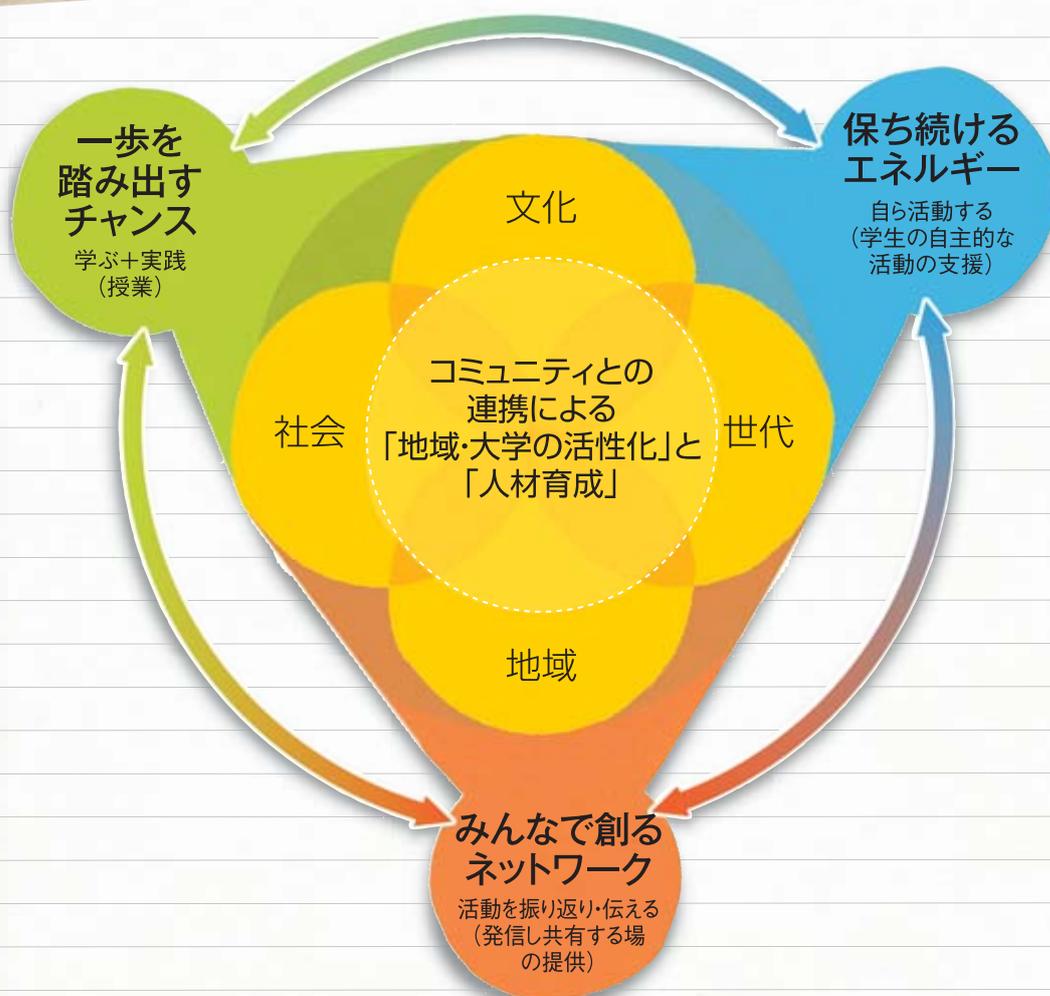
「違いを共に生きる」社会の実現をめざし、
学生一人ひとりの広い視野と行動力を育てます。

国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいなど互いの違いを正しく知り、互いが生かし、生かされ合う存在だと認めて生きる——

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学外のさまざまなコミュニティとの連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会人基礎力、生きる力を育むことをめざしています。CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、さまざまな人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

CCCは、「文化」「世代」「地域」「社会」の違いを
共に生き、多様なコミュニティと連携して、
地域・大学の活性化とコミュニティリーダーとなる
人材の育成をめざしています。



「教育」と「支援」の両軸で 地域と共に活動し、社会に貢献できる人を育成します。

CCCは、学外のコミュニティとのボランティアや社会貢献をキーワードに、地域社会のニーズや思いをくみとり、地域の人々と共にさまざまな活動に取り組んでいます。「教育」と「支援」の2つを軸に、学生が「文化」「世代」「地域」「社会」の違いや多様な価値観に共感し、自己を成長させる「生きた学び」が得られるようにサポートしています。

「教育」としては、講義だけでなく、ボランティアなど実際に取り組む「CCC開設科目」を開講しています。学生が地域や社会の現状を正しく理解し、自ら考え、行動する主体性や実践力を高めることをめざして、地域、企業、NPO、自治体などのさまざまな人と共に活動する機会を豊富に用意しています。

そして、学生たちの芽生えた自主性を伸ばしていく「支援」が、CCCのもうひとつの大切な役割です。さまざまな人と出会い、活動していく中で、現場で新たな課題を発見し、行動・実践、問題解決ができるように、学生の自主的な活動の支援に力を注いでいます。

こうした、「教育」と「支援」による柔軟な体制も整え、学生の意欲や思いを具体的な活動としてカタチにし、社会貢献できる人へと一人ひとりを導いていきます。

広い視野と行動力、
豊かな人間性を持ち、
社会に貢献できる人材の育成



学生の実践力を育む

「教育」

地域や社会とつながる
新しい教育プログラムを創り出します。

- 【CCC開設科目】
- 講義型授業
- 「入門ボランティア」
- 「障がい者支援ボランティア入門」
- 課題探究型・演習型授業
- 「コミュニティ・サービスマーケティング(I~V)」

▶▶▶ P5へ



学生の自主活動を応援する

「支援」

一人ひとりの思いをカタチにし、
自主活動を支援します。

学生一人ひとりが持つ活動への意欲や思いを大切に、学外のさまざまなコミュニティとの出会いをコーディネートしながら、学生自ら活動の幅や人との輪を広げられるようにサポートしています。

▶▶▶ P9へ





学生の実践力を育む

「教育」

地域や社会と共に活動する第一歩を後押しし、自ら考え、行動していく実践力を豊かに育みます。

地域や社会と共に行う社会貢献に、学生が段階的にチャレンジできるように、CCC開設科目を開講しています。講義型授業「入門ボランティア」「障がい者支援ボランティア入門」では、ボランティアについての基礎知識やスキルを身につけることはもちろん、地域社会の人々と積極的に関わることができる数多くの体験学習を取り入れています。

さらに、次のステップとして位置づけられる、課題探究型・演習型授業「コミュニティ・サービラーニング(I~V)」では、「まちづくり」「企業のCSR活動」「地域メディア実践」「地域福祉」「日本語学習支援」の5つのテーマに基づきより具体的な地域活動に取り組みます。こうした授業を通して地域や社会へと一歩を踏み出した学生は、自ら考え、行動する実践力を高めています。



CCC開設科目



ボランティアについて学ぶ

初めてボランティアにチャレンジする学生も参加しやすいように、ボランティアの基礎を学ぶ講義から活動の実践までを行います。「地域や社会に役立ちたい!」と意欲にあふれる学生の一步を応援します。

入門ボランティア

地域での実践事例を通してボランティア活動の「魅力」を学び、「楽しさ」を知り、「参加」へつなげることをめざします。そのためにグループワークを中心とした参加型学習をしながら、企業と連携した途上国支援など、身近なところからできるボランティアを実践します。



途上国に古着を送るため、回収、仕分け、梱包し、発送まで行いました

障がい者支援ボランティア入門

肢体や視覚、聴覚に障がいのある人への支援技術として、移動支援(車イス)、手話、ノートイク、パソコンイクを学びます。さまざまな支援技術にふれることで、幅広く障がいのある人への理解を深めるとともに、学内で支援を必要としている人への支援活動につなげていきます。



▶ 移動支援(車イス)

グループワーク▶
障がいのある人が学生生活を送る上での配慮について考えます



地域・市民活動に参加する

地域社会とともに、地域社会を取り巻く問題や課題の解決をめざす体験学習をします。

コミュニティ・サービスラーニングI~V

「まちづくり」「企業のCSR活動」「地域メディア実践」「地域福祉」「日本語学習支援」の5つのテーマから、さまざまなコミュニティとの地域連携プログラムを企画・実践し、地域社会の一員としての自覚と能力を養います。

(I) まちづくり

長久手町やNPO法人エコデザイン市民社会フォーラムと協働しながら、町内の小学生を対象に、世界共通の絵文字を使った環境マップ「グリーンマップづくり」を企画運営していきます。



子どもたちと作成したグリーンマップ

(II) 企業のCSR活動

企業の社会貢献活動CSR活動の企画立案に参加し、学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を修得します。



(III) 地域メディア実践

現代地域社会の課題を発掘、議論、取材し、地域社会の人々に一緒に考えてもらうためのメディア・コンテンツ制作を行います。2010年度はCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の開催に伴い、マグロ、南極オキアミ、ミツバチ等を切り口に「生物多様性」と「環境問題」を身近な問題として伝える映像作品を制作し、映像は水族館の大型スクリーンとホームページで紹介されました。



(IV) 地域福祉

地域の福祉の課題に目を向け、現状を知り、問題解決のために取り組むべき課題を具体的に学びます。2010年度は高齢者施設における夜カフェの実施運営、知的障がい理解のための交流企画を運営しました。

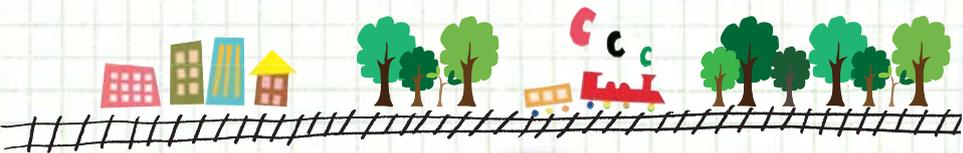


(V) 日本語学習支援

※2011年度より開講

在住外国人の現状や背景を理解し、日本語学習支援の役割や方法を学び、学外での活動に参加します。学内での講義と学外での実践を通し、多文化共生社会に向けて一人ひとりができることを考えていきます。





CCCの授業で子どもたちの笑顔に出会い、 世界へと視野が広がりました。

コミュニケーション学部 言語コミュニケーション学科 4年生

岩瀬 靖奈 さん



「コミュニティ・サービスラーニング」

- 小学校でのグリーンマップづくり
- 外国人の子どもたちとの映像作品づくり
- 長久手町や企業との『リニモde Walker』の共同制作 など

エコマネー集めを通して、ボランティア活動の楽しさを実感。

2年生のときに「コミュニティ・サービスラーニング」を受講し、初めてボランティア活動に挑戦しました。まず、取り組んだのが、地域の小学生とのグリーンマップづくり。私はイベント当日に子どもたちにプレゼントするエコマネー集めを担当しました。仲間とアイデアを出し合って広報活動した結果、多くの学生の協力を得ることができ、さまざまな人の力を合わせて活動することの楽しさを実感しました。

外国人の子どもたちの成長する姿に、パワーをもらいました！

さらに夏休みには、三重県松阪市で暮らす外国人の子どもたちとの映像作品づくりにも取り組みました。2泊3日の活動で最も印象深いのが、子どもたちの成長です。学生と子どもが一人ずつペアになって作品づくりを行う中で、笑顔の少なかった子どもたちが自分の思いを素直に表現し、表情がどんどん明るくなっていく姿を見て、涙が出るほどうれしさを感じました。そして、外国人の子どもたちが日本の社会の中でも自分らしく成長していけるよう力になりたい!と感じ、もともと志望していた日本語教師への思いがより大きく、強くなりました。



日本語教師に必要な力を磨くために、自主活動にも取り組んでいます。

- 西尾市教育委員会での日本語学習支援
- JICA(独立行政法人国際協力機構) 中部国際センター 「地球の子育てひろばアプブ」の運営 など

世界中の人が居場所を見つけ、自分らしく生きていけるよう力になりたい！

現在、CCCの小島先生のご紹介で西尾市教育委員会の日本語学習支援にボランティアとして参加し、さらに、西尾市の就学前児童に日本語などを教えるプレスクール、JICA中部の「地球の子育てひろばアプブ」などの活動にも励んでいます。日本語教師への志がより強くなり、次々とやりたいことが見えてきたのは、「コミュニティ・サービスラーニング」を通して地域や社会、世界の現状を知り、「私も力になりたい!」と心が揺さぶられたから。今後も、この初心を忘れずにチャレンジし続け、外国人の子どもたちがのびのびと学び、楽しく過ごせる居場所をつくりたいと思います。



大学2年前期

ガイダンスで「コミュニティ・サービスラーニング」を知り、実践的な内容に惹かれて受講。初めてボランティアに参加!

大学2年夏休み

「コミュニティ・サービスラーニング」の一環で、松阪市で暮らす外国人の子どもたちと出会い、志望していた日本語教師への思いが高まる!

大学2年後期

CCCを通して、西尾市の多文化子育て支援に関するボランティア活動をスタート。外国人の子どもたちとのふれあいを楽しむ!

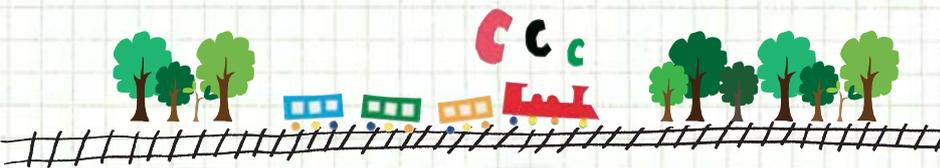
大学3年～

西尾市だけでなくJICA中部などでのボランティア活動、中国・南京師範大学での教育実習なども経験。世界での活躍も視野に入れて、日本語教師に必要な力を磨く日々!

市民団体の方の声

「にしおっこカラフル」代表 菊池寛子さん

西尾市国際交流協会の「にしおっこカラフル」が日曜日に開催している外国にルーツをもつ小中学生の勉強会で、ボランティアとして協力いただいています。「私が楽しんでます!」といつも言ってくれる靖奈さんですが、ボランティアにしても、教育者としても「楽しんでる」ことは大切なことだと思います。一人ひとりのことを大切に、そして丁寧に関わってくれる彼女のような学生が増えることを期待します。



**ボランティア活動を通して、
「人と人のつながり」のパワーを実感しました。**

現代社会学部 現代社会学科 フィールドスタディコース
2010年度卒業(株式会社三井住友銀行 就職)
星野 友里 さん



「コミュニティ・サービスラーニング」

- 株式会社デンソー主催「DECOスクール」に参加
- 「ボラみ展(名東区のボランティア団体とボランティアをしたい人をつなぐイベント)」の企画・運営
- 企業の社会貢献活動の企画立案 など

初めて地域の方とともに活動し、自分の世界が大きく広がりました!

入学当初、4年間の計画を立て、予定通り1年生で日商簿記検定2級を取得。次なる目標としてボランティアに参加しようと、2年生のときに「コミュニティ・サービスラーニング」を受講しました。初ボランティア活動となったのが、「DECOスクール」での環境問題をテーマにした映画上映会の準備です。そこで、心に大きな衝撃を受けました。地域の方、企業の方、学生などいろいろな人が「地域のために」「人のために」という強い思いを持って協力し合う姿を見て、「こんなに素晴らしい活動があったんだ!」と目の前が開けた感覚を覚えました。

ボランティア活動の現場には、「互いに認め合う」環境がある!

ボランティア活動への意欲が高まり、続いて「ボラみ展」の会場設営や講演会の準備などに取り組みました。約50団体ものボランティアグループや地域のさまざまな方と出会う中で、人と人がつながり合い、お互いを認め合って活動の輪を広げていることを実感。以来、「私も自分で考えて活動してみたい!」とボランティア活動への思いはますます大きくなっていきました。

自分で考えて行動したいと
意欲が高まり、
自主活動に力を
注ぐようになりました。

ecocon(全国大学生環境活動コンテスト)2008
グランプリ・環境大臣賞 受賞!

- 「CINEMA×ECO(映画館のドリンクをリユースカップで提供する活動)」の実行
- 「DECOスクール」での廃食用油キャンドルづくり教室の開催 など

さまざまな人と積極的に関わった経験は、
社会人としての力になります。

2年生の後期から、「エコネクスなごや」という学生中心の環境活動グループに所属。「おしゃれエコ」をコンセプトにした活動に取り組みました。その中でも企業の方と連携して進めた「CINEMA×ECO」は、学生の環境活動を表彰するコンテストでグランプリを獲得! 東京で行われた活動発表会で、私たちと同じように熱い思いを持って行動する仲間が日本各地にいることを知り、活動への意欲がさらに高まりました。在学中に培ったチャレンジ精神や行動力を発揮し、これから社会人としても向上し続けます!



大学2年前期

「コミュニティ・サービスラーニング」で初めてボランティア活動を行い、自分で考えて行動する活動への意欲が芽生える!

大学2年後期

「エコネクスなごや」で他大学の仲間と一緒にさまざまな環境活動に取り組み、活動の幅も、人の輪も大きく広げる!

大学3年~

キャンドルナイトの開催や廃食油をつかったキャンドルづくりのレクチャーなど、エコを考えるきっかけづくりを企画・実行!

卒業後

株式会社三井住友銀行に就職。在学中に培った力を活かし、お客様一人ひとりの思いに応えるサービスをお届けします! ボランティア活動も続けます!!

星野友里さんへのコメント

エコネクスなごや
サポート役 河原美和さん(グリーンライフ・ナビゲーター)

友里さんとはエコネクスなごやで3年間共に活動させていただきました。この3年の間にぐいぐいみんなを引っ張ってってくれるリーダー的な存在に成長してくれました。後輩たちの思いをうまく引き出し、カタチにしていこうというサポート力も抜群で、笑顔の裏側にはアツいものを秘めているのだと感じました。卒業しても社会に貢献するだけでなく、社会で大きな役割を担う人になってくれるだろうと期待しています。





学生の自主活動を応援する

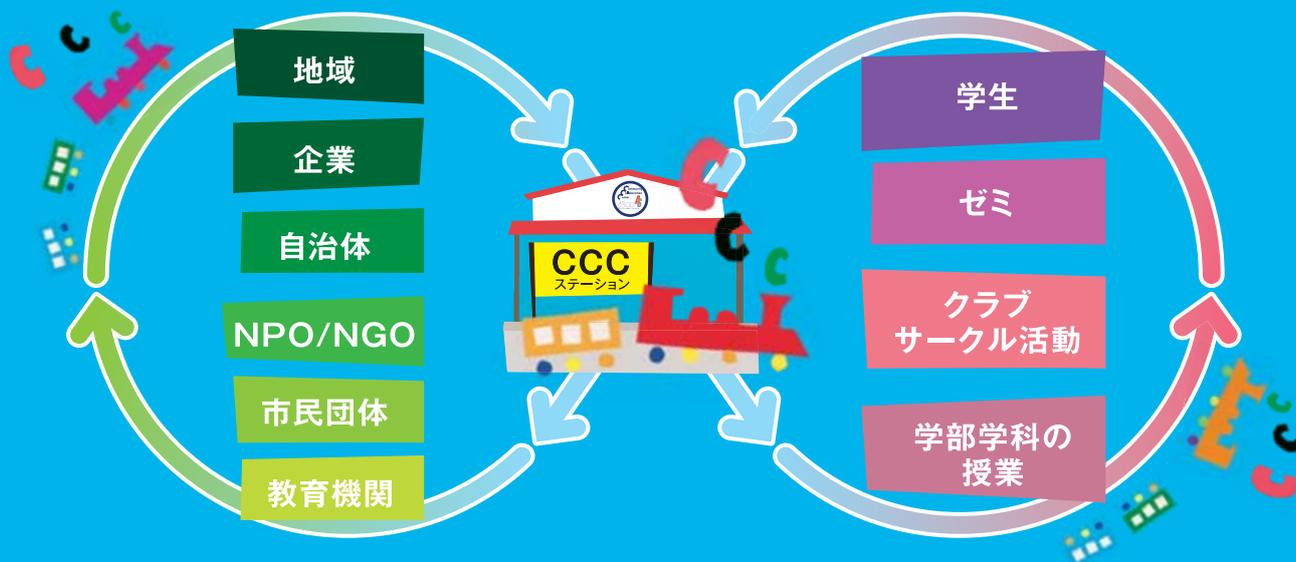
「支援」

さまざまなコミュニティとの架け橋となり、
学生が自ら活動を企画・実践できるようにサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生の力を必要としている地域・企業・自治体・NPO・NGO・教育機関との出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。さらに、学生たちが活動中に困難な事態や課

題に直面したとき、自分自身で答えを導き出せるように、考える力を引き出すサポートを大切にしています。

自主活動に励む学生は課題発見、企画・実践、振り返りによる問題解決のサイクルを体験的に学ぶとともに、新たな出会いへ、新たなチャレンジへと、人と人の輪や自分の可能性を大きく広げています。



●チャレンジファンド

CCCでは、学生のさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。各学生・グループが主体的に企画した活動内容を公開コンペでプレゼンテーションし、地域のニーズに応える活動や社会的に意義の高い活動に対して資金面での応援をしています。



チャレンジファンドのプレゼンの様子

活動紹介



小学校英語活動サポート

2008年度より日進市や長久手町の小学校での英語活動をサポートしています。ALT(外国語指導助手)による授業の補助や、担任・ALTと協働による授業を実施しています。

参加学生の声

- ◆私は大学で英語の音声学を勉強していますが、それを子ども達向けにどう活かせるかを考えるようになりました。
- ◆チーム作りの大切さやお互いの意見を尊重することを学びました。



授業の様子



事前打ち合わせの様子



中部電力株式会社との協働活動

学生団体「エコのつぼみ」が、中部電力(株)やNPOと協働し、環境保全をテーマにMY箸づくりのワークショップや大学祭での「キャンドルナイト」、学内のエアコンの適切な温度設定の推進、小学校での環境教育を行っています。2006年より継続活動中です。



マイ箸づくりワークショップ



小学校での環境教育

企業との連携



日進市「男女平等パートナーシップ事業」企画・運営

日進市より男女平等パートナーシップ事業を受託し、「男性の育児参加」を目的に学生が企画・運営を行っています。

第1弾「お父さんと作って、遊ぼう!」

親子で缶ぽっくりなどの昔の遊び道具を作って、それを使用して運動会を行いました。

第2弾「お父さんと作るバレンタインランチ♪2010」

お父さんと子どもが協力してクッキングを行い、食事後には親子でお母さんへのプレゼントにバルーンアート&カードづくりを行いました。

学生がサポートしながら、より楽しく親子交流が行える場を創りました。

行政との連携



昔の遊び道具作り



親子クッキング



授業や入学式でのパソコンテイク

大学の理念「違いを共に生きる」をもとに、すべての学生が充実した学生生活を送れるよう、講義の内容をパソコン入力により文字で伝える「パソコンテイク」を通じ、学生ボランティアが聴覚障がいのある学生をサポートしています。入学式でも活躍し、式典の話をリアルタイムで文字化しました。現在、80名以上の学生がこの活動に参加して仲間を支援しています。



入学式でのパソコンテイクの様子



規格外野菜のスイーツ開発

長野県南信州の農家の方と、飯田市からの依頼で、規格外の野菜を利用して、南信州の名物となるスイーツの商品開発を行っています。これにより野菜の廃棄処分を減らし、また、長野県と中京圏を結ぶことで、地域活性化に取り組んでいます。

ビジネス学部教員 三浦信宏先生

プロジェクトが短時間で軌道に乗せられたのは、何といても学生達の素晴らしい団結力です。この機会に商品企画、販売企画、コミュニケーション力、交渉力、チームワークのスキルを身につけて欲しいと思っています。



南信州の現地視察

ビジネス学部 3年生(2010年時) 渡邊恵美さん

この活動を通して、実際に長野へ行きました。

私たちが現状を学べるようにと1日時間を使い、付きっきりで説明、案内をくださった農家の方の農作物に対する熱い思いや、優しい人柄に触れ、何としても商品化させたいという気持ちがメンバーに込み上げました。

本来なら捨てられていた規格外野菜に命を吹き込み、元のものより価値をつけユニークなものとして提供していきたいと思っています。

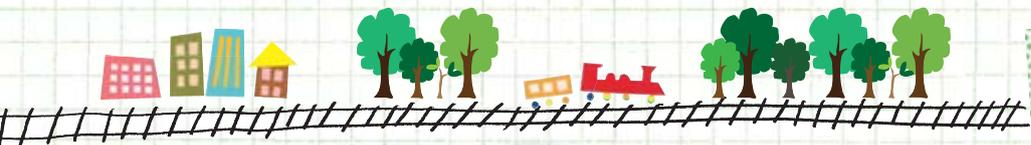
かたつむりの会 会長 木下昭則氏

若い方々にもっと農業・食の大切さを知って頂き、農業を通じて南信州の地域おこしの一端を担って頂けたらと思い連携依頼をしました。打ち合わせや研修の中でいつも学生さんのパワーに圧倒されています。皆さんと一緒に活動すれば明るい未来が、より良い地域が作れると確信しています。



農家の方とのミーティング

※かたつむりの会・・・長野県南信州農業青年の集まり



株式会社名古屋三越の方と、
販促商品の企画・発案

ビジネス学部で得た力を活かし、向上させ、
将来にも通じる貴重な経験を重ねました！

ビジネス学部 ビジネス学科 4年生
奥田 将徳 さん



学部の学びを社会で活かす、絶好のチャンス！

CCCが支援する活動の中に、名古屋三越のご協力のもとで行う「販促商品の企画・発案」という取り組みがあります。名古屋三越がさまざまな企業から依頼を受けて企画している販促商品やキャンペーン商品に関して、学生の視点からアイデアを出すという活動です。その初代メンバーとしてCCCから紹介を受けたのが、僕が所属しているビジネス学会の学生運営委員でした。ビジネスコミュニケーションのゼミで培った調査力やプレゼン力を活かせる貴重な機会だと感じ、僕を含めた3人が中心となってチャレンジしました。



名古屋三越とさまざまな企画に取り組み、提案力を磨きました。

最初に取り組んだのは、自動車メーカーのキャンペーン商品の提案でした。成約者・来店者へのプレゼントについて、「ターゲットの年代や家族構成」「金額」「季節感」、さらにそのメーカーが持つブランドイメージを考え、どんなものがもらえたらうれしいだろう？と想像しながら商品をリサーチし、リストアップしました。最初は手探り状態でしたが、インターネットだけではなく実際にお店に足を運んでトレンド商品を探したり、その商品を推薦する意図をリストに添えたり、回を重ねるごとにリサーチの仕方や提案書のまとめ方を改善しました。名古屋三越の方と共にさまざまな企画に取り組む中で、期待に応える提案力を鍛えることができた実感しています。

相手の視点に立って考えた経験は、将来の仕事にも生きる！

ターゲットや企業の視点に立って行った企画・発案は、とても楽しく、やりがいを感じることでした。だから卒業後の進路を考えたとき、さまざまな視点に立って、人の笑顔のために働く仕事に就きたいと強く思いました。現在は、多くの人の住まいへの思いをカタチにする住宅メーカーの営業職を目標に就職活動に励んでいます。今後も、在学中の学びや経験の一つひとつを活かして前進し続けます！

大学1年～

ビジネス学会の学生運営委員を務め、
新入生のサポートや学会の季刊新聞の企画・編集、
講演会の企画・運営などに実践！

大学3年前期～

CCCの方に声をかけていただき、
名古屋三越の方との取り組みにチャレンジ。
半年間で6回ほど販促商品の企画を提案！

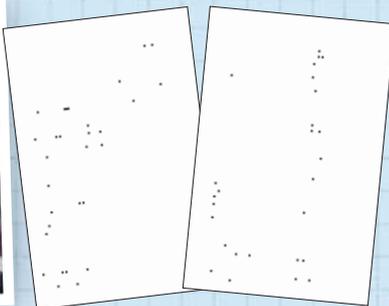
大学3年後期～

名古屋三越の方との取り組みだけでなく、
住宅メーカーでのインターンシップも経験し、将来のビジョンが明確に！

企業の方の声

株式会社 名古屋三越 前田 晃志さん

学生さんたちは、若い感性で私たちのアイデアにはない切り口で企画をまとめ、企画提案まで数日という厳しい状況のときもありましたが、最善を尽くして対応してくれました。この活動を通じて、市場でのニーズ、コスト面などさまざまな視点から1つの商品が確定されることを学ばれたと思います。今回のさまざまな学びを自分のものにして、今後の社会人生活へぜひ活かしていただきたいと思います。



名古屋三越の方に提出した企画提案書



障がいのある子どもたちと
遊びの時間を共有する学生団体
「一互一縁」

「縁」から生まれる、あたたかなチカラ。
それが、行動し続けるパワーの源です!

教育学研究科 発達教育専攻 2年生
(コミュニケーション学部 コミュニケーション心理学科 2009年度卒業)

加藤 舞美 さん



人と人との「縁」をつないで、学生団体を立ち上げました。

大学院への進学を目前に控えた4年生の3月、障がいのある子どもたちと遊びの時間を共有し、療育や支援に取り組む学生団体を仲間と一緒に立ち上げました。グループ名は「一互一縁(いちごいちえ)」。人と人との縁をつくり、互いに大切にしていこう!という思いが込められています。「一互一縁」自体も、学内外の仲間やCCCのスタッフの方々、地域の方々との「縁」があったからこそ、生まれたと実感しています。そのあたたかな「縁」のつながりは、大学に入学して間もないころ、CCCの扉を開いたときから始まりました。

数々の経験を通じ、人と共に活動することの素晴らしさを実感。

大学1年生の前期にCCCでボランティア活動に挑戦し、前に進む勇気を得た私は、さまざまな地域活動に次々とチャレンジしました。行動するたびにいろんな考えを持つ人と出会い、視野が大きく広がり、活動への意欲もより高まりました。「やってみよう!」と感じたことを人に伝え、共感・協力してもらえると、活動の力が大きくなって、ひとりではできないことも実現できる。その感動を多くの人と共有したくて、「縁」を大切にしながら行動し続けました。

大学4年生のときには、障がいのある子どもの教育や支援に関する専門知識を身につけようと大学院進学を決意。その頃、学内外の仲間と、それぞれの専門性を活かした活動にも取り組みたいと話していました。そして、障がいのある子どもをチームでサポートすることを目標に、「一互一縁」を設立。CCCのチャレンジファンドの支援をいただきながら活動に取り組んでいます。

互いに支え合う心を、地域の人と共有していきたい。

現在、「一互一縁」では月1回、就学前から小学校3年生までの障がいのある子どもたち一人ひとりの発育に合わせた遊びを一緒に楽しみ、季節ごとのイベントを定期的で開催しています。さらに、メンバー各自が大学・院で研究していることを発表し合う勉強会、各分野の専門家や社会人と情報交換できる交流会を行うなど、支援の力になる専門性を高めています。今後の目標は、チームケアを実践しながら深めた学びを地域社会に還元し、互いに支え合うための知識やマインドを多くの人に伝えていくこと。人と人とのつながりとともに活動の幅を広げ、「縁」に感謝しながら地域に貢献していきたいと思っています。



大学1年

CCCを通して名古屋市博物館でのボランティアに参加。
夏には三重県・旧宮川村のチャリティーイベントの運営に挑戦!

大学2年

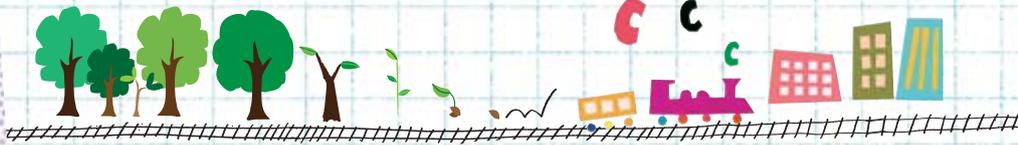
核燃料リサイクル基地のある六ヶ所村(青森県)の映画の上映会や
豊川市・三河臨海緑地公園でのキャンドルナイトの開催、
さらに、約50kmにおよぶ表浜海岸(愛知県)の
清掃活動「表浜ブルーワーク」の実践などに熱中!

大学3年

地域や社会の問題について学内でも考えを深めてもらえたらと思い、
CCCで開かれた「エコメッセ(環境をテーマにした学生の活動を紹介するイベント)」で
「表浜ブルーワーク」の活動内容を発表!

大学4年~

「一互一縁」を設立し、活動に力を注ぐ。
人と人とのあたたかなつながりを「一互一縁」から地域へと広げていきたい!



市の職員として、地域の一員として、
人と人、人と社会をつないでいきたい!

豊田市役所 近藤 久恵さん
(グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 2008年度卒業)

CCCを通しての
さまざまな経験が、
よりよい地域づくりを
めざす私の原点です!



国内外でのさまざまな活動を経て、「地域」での
活動の大切さに気づきました。

「国際協力」への理解を深めるために、国際協力機構の活動に参加!

大学4年生の夏、専攻していた国際交流についてより深く学びたいと考え、大学院への進学を決意しました。CCCを初めて訪れたのは、ちょうどその頃。JICA(独立行政法人国際協力機構)中部国際センターでの活動の参加者募集のチラシが目にとまり、やってみたい!と感じたことがきっかけでした。そこから、私のCCCでのさまざまな活動が始まりました。

世界へ大きく視野が広がると、挑戦したいことも次々と見えてきました。

JICA中部国際センターでは、他大学の学生と協力しながら、高校生を対象にした国際理解教育のイベントを企画・運営。さまざまな人と意見を交わし、世界の現状を知る中で視野が大きく広がるとともに、新たな活動への意欲が高まり、「OSHARECO(オシャレコ)map作成会」の活動、「ボラみ展」の企画・運営など、次々に挑戦しました。

「地域」への貢献が「世界」への貢献になる。インドネシアでそう実感しました。

中でも私にとって大きな転機となったのが、大学院1年生の夏に参加したFASID(財団法人国際開発高等教育機構)の海外フィールドワークプログラムです。インドネシアで「持続可能な地域のあり方」について現地の人々と話し合い、私も、私が暮らす地域に立ち返り、そこで行動を起こしたい!と考えるようになりました。一人ひとりが広く世界に目を向けながら、自分の拠点である地域にしっかりと根ざすことが、「持続可能な地域」「持続可能な世界」の力になると確信し、卒業後の進路が明確になりました。

あらゆる人が、社会の中でイキイキと暮らす地域、世界をめざして。

地域との活動を通じて、「地域づくりを仕事にする!」と決意。

FASIDでの経験以降、さっそく、地元・愛知で行われた「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」の企画・運営にチャレンジ。会議に参加したアジア各国の方々と、地域の方々と共におもてなしました。その後、豊田市役所への就職を決め、現在は庶務課に在籍し、職員の皆さんのサポート業務に努めています。

人と人をつないだ数々の経験を、よりよい地域づくりにも活かしたい!

思い返せば在学中も、CCCの学生スタッフとして、後輩たちが活動を通して社会とつながることができるようにサポートしてきました。社会の中で自分の存在意義を見出すことは、生きる力につながります。だからこそ私は、人と人、人と社会をつなぐ架け橋になりたいと、CCCでイベントの企画・運営を中心に組みこんできたのだと、今、強く実感しています。今後は、地域の中でも「福祉」に目を向け、あらゆる人が社会とつながり、地域や世界の未来を考えてイキイキと行動できる仕組みづくりに貢献したいと考えています。



学生時代の活動

<大学4年>

- 「JICA中部国際センター」での活動

<大学院1年>

- CCC開設科目「コミュニティ・サービスマーケティング」を通して、ボランティアをしたい人とボランティア団体をつなぐイベント「ボラみ展」を企画・運営
- 「FASID」を通してインドネシアで活動
- 「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」でのイベントの企画・運営

<大学4年~大学院2年>

- 「OSHARECO map作成会」でマイボトルやマイ箸の利用を促進(2007年、第5回全国大学生環境活動コンテスト入賞)





ふみ出した一歩が、よりよい地域、 よりよい自分へとつながっていく！

愛知県警察 桐生 大也さん
(文化創造学部 文化創造学科 多元文化専攻2009年度卒業)

地域へ飛び出して
活動するたびに、
自分の世界が
広がりました！



さまざまな人と関わりながら、地域との活動に熱中！

大学から地域へと一歩出て活動し、国際交流の楽しさを実感しました。

多元文化専攻で語学や多文化共生社会について学んでいた僕は、2年生のとき、名古屋市のオアシス21でおこなわれた世界大交流祭「ワールド・コラボ・フェスタ2007」に、運営スタッフとして参加しました。それが、CCCを通じて取り組んだ初めてのボランティア活動であり、国際交流の楽しさを初めてリアルに感じた体験でした。以来、国際交流に関するイベントの企画・運営を中心に数多くの活動に取り組み、地域や世界のさまざまな人と共に関わることができ、経験を重ねました。

さまざまな人と対等に向き合い、コミュニケーションスキルが向上。

「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」に参加したアジア各国の若者たちを案内したり、「アースデイ愛知2008」でフェアトレードのコーヒーを販売したり、「富士山国際エコキャンプ村」で国内外の学生とディスカッションしたり…。活動を通して人に出会うたびに考え方や価値観の多様性を肌で感じ、さまざまな人と対等に理解し合うコミュニケーションスキルが身についたと思います。地域や企業の方と接する機会も多々あり、ときには失敗も経験しました。だからこそ反省点に気づくことができ、仲間と共に向上していくことができました。4年生のときには、名古屋商工会議所の方からの依頼を受けて「NAGOYA UNDOUKAI(国際交流運動会)」の企画から携わり、企業の方々と会議でも臆することなく発言でき、自分の成長を感じました。

「百聞より、一見より、一行」の心が、よりよい自分へと成長させてくれます。

行動した先で、成長した自分と出会うことができます。

「百聞より、一見より、一行」。これは、富士山国際エコキャンプ村の方からいただいた名言です。今、新しいことにチャレンジしようとしている人のエールになればと考え、「ボラみ展」でワークショップの司会を務めたとき、教室いっぱいの参加者の皆さんに向けてこの言葉をメッセージしました。話を聞くよりも、現場で見た方が多くのことを理解できるけれど、自分で体験してみれば初めて心と体で感じ、何かを得ることができる。僕自身も、さまざまな活動に励んでそう実感し、今も「一行」の精神が胸に刻まれています。

次々と行動し続けたパワーを糧に、警察官として向上していきます！

中学生の頃からの夢を実現し、卒業後、警察官となり、現在は早く一人前になれるよう日々努力を重ねています。めざしているのは、地域で暮らすあらゆる人にとって身近で、信頼される警察官になること。在学中に培った行動力や状況把握力などを活かし、地域社会の力になりたいと思います。



学生時代の活動

<大学2年>

- 「ワールド・コラボ・フェスタ2007」の企画・運営
- 「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」ユースフォーラムのアテンド
- ヨーロッパ野球支援団体「GLOVE」で活動

<大学3年>

- CCC学生スタッフとして活動
- 学会活動の一環として、名古屋市の久屋大通公園で行われた「アースデイ愛知2008」にブースを出展
- CCC開設科目「コミュニティ・サービスマーケティング」を通して、企業にCSRの企画を提案
- 「富士山国際エコキャンプ村」でのボランティア活動に参加
- 名古屋商工会議所主催「4th NAGOYA UNDOUKAI」にボランティアとして参加
- CCC開設科目「地域活動総合演習」で、長久手町と共同で「TAKecoスクール(里山の竹の有効活用を考える取り組み)」を開催

<大学4年>

- ボランティアをしたい人とボランティア団体をつなぐイベント「ボラみ展」を企画・運営
- 「5th NAGOYA UNDOUKAI」の企画・運営スタッフとして参加
- ジャマイカの養護施設の子どもたちに楽器を送る国際協力を企画





活動するたびに地域への思いが高まり、 前向きなパワーがあふれてきます!

株式会社 三重銀行 金井 綾美さん
(コミュニケーション学部 言語コミュニケーション学科 2008年度卒業)

「やってみたい!!」
と思ったら、
口に出してみる。
そこから道が
開かれます!



地域に愛される大学祭をつくりたい。
その強い思いが私を動かしました。

CCC開設科目を通して、ボランティア活動の魅力を実感。

私が3年生のとき、CCCが誕生し、CCC開設科目も履修できるようになりました。以前からボランティアに興味があった私はチャンスだ!と思い、さっそく「入門ボランティア」「コミュニティ・サービスラーニング」を受講。企業のCSRの一環として中東の子どもたちに古着を送る活動に取り組んだり、三重県松阪市人権課と協働で在住外国人の方に関する人権問題啓発冊子「みんなまつさか しみん」を制作したり、人と人のつながりの尊さを実感する貴重な体験をすることができ、ボランティア活動の魅力を体感しました。

3km以上の道のゴミをみんなで拾う「クリーン&グリーン企画」を実践しました。

大学祭実行委員として活動していた私は、CCC開設科目での学びや経験を活かして、大学祭実行委員会にボランティア班を設置。「地域の人にも愛される大学祭をつくりたい!」という思いをカタチにするために、「クリーン&グリーン企画」として地下鉄・本郷駅から大学までの道のゴミ拾いを提案し、仲間と共に実践。地域への感謝の気持ちを込めて取り組みました。

先輩へと受け継がれる、地域への感謝の気持ち。

最初、協力が得られるか不安を感じていた分、仲間が思いを理解してくれて、地域の方が「頑張っているね。ありがとう」と声をかけてくださって、うれしさが胸がいっぱいになりました。自分の考えをきちんと口に出して伝え、人の共感を得て実行していくことの素晴らしさを実感しました。さらにうれしいのは、現在も「クリーン&グリーン企画」が続いていること。地域への感謝の心が先輩に受け継がれていると思い、感激しました!

地域の人と人をつなぐ活動も行い、地域貢献への意欲が向上。

仲間と一緒に、地域のつながりを生み出すきっかけづくりを実践。

4年生の夏には、大阪で開かれた「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2008」にCCC学生スタッフの仲間と参加しました。阪神・淡路大震災でのボランティア活動に関する話など、全国から集まった大学生と情報や意見を伝え合い、新たな活動への意欲が高まりました。そこで企画・実践したのが、「拾って繋がるみんなの輪 ～ゴミ拾いから始まる防災～」。地域の皆さんの防災意識を高めることと、同じ地域に住む人と人とのつながりをつくることを目標にしました。イベント当日はゴミ拾いだけでなく、防災について楽しく学べるゲームや実験なども実施。子どもたちから高齢者の方までたくさんの笑顔を見ることができ、大きなパワーをいただきました。

「人のために」「地域のために」という思いを持って、仕事にも励んでいます!

在学中のさまざまな地域活動を通して「地域貢献」への関心が高まり、卒業後は地元の方の暮らしに密着した銀行に就職しました。「地域の人にも愛される大学祭をつくりたい!」という思いは、今、「地域の皆様の力になれる仕事がしたい!」という志へと高まっています。

学生時代の活動

<大学1年～>

- 大学祭実行委員会のメンバーとして活動

<大学3年>

- CCC開設科目「入門ボランティア」で企業のCSR活動に参加
- CCC開設科目「コミュニティ・サービスラーニング」で三重県松阪市と人権に関する冊子を制作
- 地域と学生が協働で開催した「堀川フラワーフェスティバル」に参加
- 地域通貨に関する「グリーンフォーラム」にパネリストとして参加
- 大学祭実行委員会にボランティア班を設置し、「クリーン&グリーン企画」として地域でゴミ拾いを実践

<大学4年>

- CCC学生スタッフとして活動
- CCCで開かれた「エコメッセ(環境をテーマにした学生の活動を紹介するイベント)」でクリーン&グリーン企画について発表
- 「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2008」で全国の大学生と意見・情報交換
- 地域とのイベント「拾って繋がるみんなの輪 ～ゴミ拾いから始まる防災～」を企画・運営





「変わりたい」という思いが、 今も走り続ける僕の原点です。

株式会社 西島製作所 柴田 督史さん
(現代社会学部 現代社会学科 フィールドスタディコース 2008年度卒業)

行動すると次々と
新しい目標が見つかる。
だから何事にも
前向きに取り組める



やりたいと思ったら、実行。その礎を、CCCを通じて築きました。

自分を変えたい! その思いから、地域活動にチャレンジ。

初めてCCCを通して取り組んだ活動は、「寺子屋in貴船小学校」。子どもとあまり関わることがなかったため、新しい自分が見発見できるのではないかと思い、チャレンジしました。実際、子どもたちや障がいのある方の笑顔を見て、一緒に楽しく過ごして、新鮮な感動を味わいました。この経験が、「変わりたい」と感じていた僕に一步前へ進む勇気をくれました。

卒業までの時間を有効に活用して、さまざまな活動に打ち込みました。

3年生の夏には、愛・地球博ボランティアセンターでのインターンシップに挑戦。就業研修自体は短期間でしたが、その後数カ月間、「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」の運営のボランティアとして活動しました。ニュージーランドやシンガポールへの留学を経験し、海外に興味があった僕にとって、国際会議に携わることはまたとない学びの機会。国内外のさまざまな人との交流を通して、知識の幅や視野が広がっただけでなく、自分自身を見つめ直すことができました。そのとき、海外と関わる仕事に就きたい思いが定まり、4年生の春、早々に就職を決定。以降、卒業までの時間を有効に活用しようと、「富士山国際エコキャンプ村」でのボランティア活動、海岸清掃活動、外国人労働者への日本語学習サポートなどに次々と取り組みました。新しい経験をするたびに、自分が成長している確かな手ごたえを実感し、活動への意欲がさらに高まっていきました。

「変わりたい」という思いから、チャレンジする力が生まれます。

仕事とチャリティー団体での活動が、自分を支える2本の柱。

現在は、仕事だけではなく、カンボジアやフィリピンの孤児院の子どもたちを支援するチャリティー団体「+one(プラスワン)」の活動にも力を注いでいます。卒業旅行でカンボジアを訪れた際、偶然この団体の方と出会い、就職後、東京への異動を機に活動に参加するようになりました。これまでに、国内でのチャリティーイベントの開催に携わり、また、フィリピンの孤児院を訪れ、子どもたちとの交流を楽しみました。仕事ばかりに追われていては視野が狭くなってしまふと思ひ、社会人である自分の柱としてもうひとつ、地域活動も継続し、自分自身の可能性を広げ続けたいと考えています。

常に、自分に新しいものを取り込んでいきたい。

仕事にも、活動にも、何事にも意欲的に取り組めるのは、「変わりたい」という学生時代の思いを持ち続けているから。現状に満足し、立ち止まるのではなく、新しいことにチャレンジし続け、自分の中に新しいものを吸収していきたい。この思いを胸に、これからも常に目標意識を持って走り続けます。



学生時代の活動

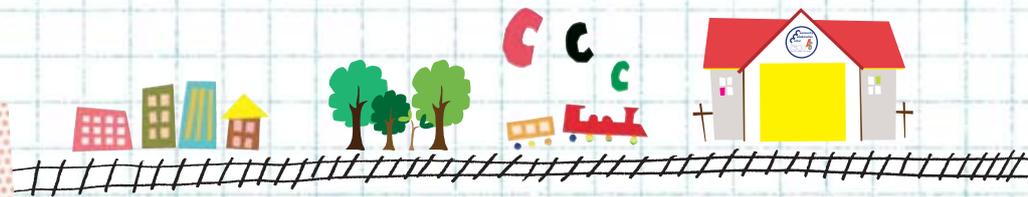
<大学3年>

- 「寺子屋in貴船小学校」に参加
- 愛・地球博ボランティアセンターのインターンシップに参加し、「第11回IAVEアジア太平洋地域ボランティア会議2007in愛知・名古屋」のボランティア活動にも参加

<大学4年>

- CCC学生スタッフとして活動
- CCCで開かれた「エコメッセ(環境をテーマにした学生の活動を紹介するイベント)」の企画・運営
- 「富士山国際エコキャンプ村」でのボランティア活動に参加
- 子どもたちとのキャンプボランティアに参加
- 海岸清掃活動「表浜ブルーウォーク」に参加
- 外国人住民への日本語学習サポートに参加
- 「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2008」で全国の大学生と意見・情報交換
- 地域とのイベント「拾って繋がるみんなの輪 ～ゴミ拾いから始まる防災～」の企画・運営
- ペットボトルのキャップを回収してワクチンに変える活動「Shu-Shu-Train☆」の企画・実践





「2010愛知環境賞」優秀賞を受賞しました

「身近にできるエコアクション」をキーワードに、学生が、企業と協働での環境啓発活動、小学生とのグリーンマップづくり、エコマネー事業への参加など、数多くの環境活動を地域の方々とともにを行っています。学生一人ひとりがアイデアを活かして活動の企画・運営に携わり、現場での実践を通して環境問題への理解を深めています。こうした環境活動を、『実践・大学生のエコシフト推進隊「愛知淑徳大学CCC」』としてまとめ、愛知県主催の「2010愛知環境賞」に応募したところ、優秀賞を頂くことができました。身近なところから、できることから、楽しみながら進めてきた数々の環境活動は、多くの人の共感を呼び、新たな取り組みへと発展し続けています。



COP10関連のイベントが愛知淑徳大学で開催されました

2010年に開催されたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に関連して「生物多様性国際ユース会議in愛知2010」が環境省主催で行われ、その一環として愛知淑徳大学星が丘キャンパスにてユース会議参加者と地元愛知県の青年との『交流会』が開かれました。企画・運営を担当したのは、愛知淑徳大学の学生を含む愛知県の大学生。日本の文化や自然を体感しながら、66カ国の青年たちが心を通い合わせました。



『交流会』実行委員長
柴田悠希さん
文化創造学部
文化創造学科
多元文化専攻
4年生

国籍や言葉、文化が違っていても、一人ひとりが同じ地球に暮らす仲間です。しかし、地球上には戦争や飢餓・貧困・自然破壊など深刻な問題もたくさんあります。私はそれらを解決に導く第一歩として、<相手を知る>ということが大切だと思います。今回の「交流会」から、相手を思いやること、世界を考えること、生物多様性を守ることへの思いが広がっていけばと願っています。

長久手町と愛知淑徳大学との連携協定が締結されました

リモ活性化のためのフリーペーパー制作、小学校でのグリーンマップづくり、町広報誌の表紙撮影、国民健康保険しおりの挿絵制作、女性・子ども安心安全キャンペーンの共同企画など、長久手町のさまざまな活動に、学生たちがCCCを通して参加しています。こうした自治体と大学が協働する「まちづくり」をさらに推進し、相互に発展していくことを目的に、2010年10月、長久手町と愛知淑徳大学との間で連携協力が締結されました。今回の連携協定により、学生たちが取り組む地域とのさまざまな活動が、今後より多くの人へと広がり、より意義あるものになっていくことでしょう。



活動実績 Activity results

-  ... CCC事業、運営
-  ... 学生の活動
-  ... 授業関連活動



2008

学生企画の開花&地域の
ニーズに応じて

-  NPOと連携した「ボラみ展」企画・運営
-  長久手町受託事業グリーンマップ企画 ➡ 継続
-  在住外国人の子どもの想いを映像化・ケーブルテレビで紹介 ➡ 継続
-  「エコメッセ」学生による環境活動のポスターセッション(16団体参加)
-  学生による体験報告会、活動する学生をつなぐ交流会「ボラの輪」、児童館・自治会と連携したスポーツ・環境・防災企画等
-  小学校英語活動サポート ➡ 継続
-  愛知県生涯学習課受託事業「学びの特派員」
-  手話deランチ ➡ 継続
(障がい学生支援) 他

-  愛知県「環境賞」優秀賞受賞
-  長久手町連携協定締結
-  COP10パートナーシップ企画
名古屋港水族館との連携映像作品の製作
-  国際ユース会議交流会
-  長久手町稲作プロジェクト(こめ☆こめくらぶ)
愛知県主催「学生によるリモ沿線地域づくり活性化事業」
-  長久手町主催「子ども・女性安全キャンペーン」企画・運営
-  長久手町主催防災フェスティバル ブース出展
-  名古屋三越連携企画 販促品の企画・開発
-  かたつむりの会との協働 南信州特産物開発プロジェクト
-  CCCイメージキャラクター&ネーミング募集!
- 他

2010

学生と地域の縁が
新たな可能性を創る!



-  長久手町との地域活性化プロジェクト リモ&環境学習会
-  在住外国人対象「将来の進路を考えるワークショップ」
「みつけよう将来の仕事!!!」冊子の作成
-  チャレンジファンド(14団体) ➡ 継続
-  日進市男女平等パートナーシップ事業:父親の育児参加応援
プログラム企画・運営 ➡ 継続
-  環境授業@小学校「世界の水事情」
-  ボランティア展での「Let's Action講座」企画・運営 他

2009

新たな学生支援プログラムと
広がる連携



CCC科目関連

-  めいとうボランティア展の企画・運営
(学生と団体の協働による名古屋地域初の試み)
-  NPOと連携、EXPOエコマネーを
利用した環境企画・運営 ➡ 継続
-  EXPOエコマネーフォーラム開催
-  松阪市人権問題啓発冊子づくり
-  堀川環境啓発活動 ➡ 継続
-  インターンシップと公開報告会

学生自主企画

-  星が丘自治会の方とのクリーンアップ活動・
スクールガード ➡ 継続
-  長久手周辺Clean&Green活動 ➡ 継続 他

2007

CCC科目開講&
地域と連携した
プログラム
本格始動!



2006

CCC開設&
地域・企業との
アクション開始!



-  CCC開設 広報活動開始(466団体)(9月)
-  星が丘1号館に新コーナー設置・移転(11月)
-  CCC開設記念講演会&交流会開催(12月)(「トヨタの社会貢献活動」紹介と学生、千種区・名東区社会福祉協議会、名東区ボランティア団体との初連携によるポスターセッション)
-  セミナー「サービスマーケティング講座」(講師:村上徹也氏)開催(1月)
-  中部電力株式会社と連携した環境活動「エコのつぼみ」 ➡ 継続
-  株式会社デンソーとのグリーンウォーク等 ➡ 継続
-  名東児童館、中村児童館、名古屋市障害者スポーツセンター、
NIC、AHI等でのボランティア ➡ 継続
-  富士山国際エコキャンプへの参加 ➡ 継続 他

CCCを活かし、 創り、学ぶ学生数 (年間利用者のべ数)

2006年度
半年間
922人

2007年度
3018人

2008年度
5755人

2009年度
6935人

2010年度
9144人



AS 愛知淑徳大学

お問い合わせ

URL: <http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/>

e-mail: asccc@asu.aasa.ac.jp

長久手キャンパス

〒480-1197 愛知県愛知郡長久手町長湫片平9
TEL:0561-62-4111(代)

交通案内

- 名古屋駅より地下鉄東山線「本郷」まで24分
「本郷」より名古屋市営バス「猪高緑地」行き乗車
終点「猪高緑地(愛知淑徳大学)」下車(所要時間約15分)
- 名鉄バスセンター4階 4番のりばから名鉄バス「竹の山南」まで34分
- 栄バスターミナル(オアシス21) 9番のりばから名鉄バス「弁天池」まで40分

星が丘キャンパス

〒464-8671 愛知県名古屋市千種区桜が丘23
TEL:052-781-1151(代)

交通案内

- 名古屋駅より地下鉄東山線「星ヶ丘」まで18分 星ヶ丘(3番出口)より徒歩3分